夕刊 磐城新聞
六月十二日發行
日曜祭日翌日休刊

アルバムから 六

赤井嶽男

——小生等不相變です、仕事が忙しいので御無沙汰勝ちになつて相濟みません御家庭も元の支局のそうで私にとつても最も親しみのある部屋々々、時折夫婦して話し合つて居ります、その後御三世御出生の事と存じますが……その內何處かへ移り度いと存じて居ります、まる二年で前橋もあきあきしました

大正十四年十一月四日
前橋市にて
西川一路

○

九日聯隊對抗四聯隊と福島平地を狹みて演習、米澤方面に向ふ敵を牽制する任務を有する支隊の先遣隊中の又最右翼に位置して陣地を占領し、敵を阻止して夕方より退却し松川地方高地に陣地を占め一睡もせず夜半より追擊その上將校斥候にて午前二時迄走り通し九時迄大活動を致し候、兵は一晩夜雨に曝され一睡もせず尙良く從順に働き居り候事涙ぐましき迄に候

大正一四、一〇、一一
長久保

○

二十三日大演習參加部隊に對して觀兵式

攝政宮には御風邪の爲閑院宮代行せられ午後は賜饌にて地方の有志と共に師團司令部に參り候、明二十四日大河原迄行軍廿五日汽車にて歸營

同 一〇、二三
於仙臺宿舍
長久保

○

——豫定通りの旅を終へ申候に付六日夜出發歸國の途に着き可申候

草繭や蝦夷の平野の踏み心地

大正一五頃五月
於札幌
草野生

○

昔て鈴兵が住んだ事がゐると云ふ樺太に渡島して以來二週間になります、札幌室蘭、小樽を見ていま函館市外の湯の川温泉に滯在してゐます、十三日トラピスト修道院に行つた歸りに立待岬に立つて啄木の跡をたづねました

東海の小島の磯の白砂に われ泣きぬれて蟹と戯る

歌人啄木はこの歌をよんで死んだ。私は右の歌をよんでありし啄木を想ふ

啄木の泣きぬれたる立待の 岬に立てばわが胸いたし

昭和二、九、一三
湯の川温泉にて

六月題詠。『初夏雜詠』歌數制限なし。
投稿締切 六月二十日。

默鐘

潮聲硯靜抄帳

第八十集
丹羽翠雨選

病後吟
春と云ふに冷たき風や椽にゐる　鷹子
春曉の遠山はうす紫に　長貴
春の潮音もおぼろの夜なりけり
春潮にけむれるごとき岬かな　竹羊
うらゝかに白壁うつる入江かな　花堂
夕雨に雫をもてる櫻かな　一來

客舍偶拈

珠雲 小野務平

夜雨蕭條髪髪零 客窗撫枕思千般
前途志業猶遼遠 畢竟人生行路難

その日

6月13日——△北條義時卒去(元仁元)△明智光秀誅せらる(天正一〇)△抗日支那留學生を上海へ送還(昭和八)△此頃藤原川鑛毒問題起る(同九)

○

けふ、入梅——。これからは連日晴れたり曇つたりの梅雨天氣で、人の氣持ちを滅入らせる。

梅雨は如何して起るか

小名濱測候所
富山三郎

中

雨の多い地方では支那の揚子江の南部、印度のガンジス河の流域、雨量の多いことは世界でも有名であります。又ヨーロツパの西部にも雨期がありますが、此地方の雨期は冬であります

偖て入梅はどうして起るかと申しますと、この時分は太陽が一番北の方に寄つて居りますから亞細亞大陸の中央部は强い日射のために地面が暖められます。そのために空氣は温められて上昇いたしますから、その邊の空氣が大層稀薄になつて仕舞ひます

即ち低氣壓が生じます。其低氣壓は段々東の方へ進んで來て、支那東海に入つて益々發達し、同時海上で多分の水分を吸收し、更に日本に進んで參ります。丁度此時非常に發達して居る北太平洋の大高氣壓はオホーツク海から來る寒流の影響を受けて千島、北海道方面に於て最も高くなつて居るために、低氣壓はいつの間にか消えて仕舞ふ樣な型となります。けれども亦新しい低氣壓が後から後からと支那方面から移動して參ります。毎日雨許り降つて何時も厭な日が續くことになります。これが梅雨であります。やがて北太平洋の高氣壓は次第に南に移り、夫れに連れて低氣壓は北へ北へと進んで行きます。七月上旬から中旬頃になりますと高氣壓はずつと南の小笠原島邊に位置を占めて居ります。もう邪魔がなくなつたので低氣壓は日本を通り越して太平洋に出て此處に全く梅雨は明け夏の訪づれとなるわけです

小説

誰が殺したか (42)

今野賢三作
龍造寺膽畜畫

第二の殺人(十二)

この質問の矢を向けられると、咲山は目をつぶるやうにして沈んだ顔になつた

『單に友人といふことだけのことです』

『友人、成程友人——然し貴下とは特別に親頼し合つた友人だつたとかうかゞひましたが……』

刑事課長の目は可なり鋭くなつて來てピカリと刃物のやうな光りをさへ帶びた

『成程、親頼し合つてはをりましたがそれ以外のものではありません』

咲山の聲は不思議に低くなつてゐた

『それにしても貴下は死ぬ三四日前に令孃と會つてをりますね』

この質問に對して咲山はいさゝか狼狽の目を開いて

『さうです、富枝子さんにお目にかゝりました』

課長はいよ〳〵乘り出して來るやうに

『で、その時に令孃には何か差支なかつたらその時に貴下とどんな會話をかはされたかうかゞはして貰へませんか?』

『さあ、どんなと申しましても唯普通の世間話でしたね』

『唯、それだけだつたのですか、假りにあの自殺の遺書がほんたうだとすれば特別に親密なあなたに對して何等かの言葉を洩らさないといふことはないと思ひますがね、殊に他に友人と言ふものをもたなかつたのですからね』

咲山は沈默した

『それはかりではなく、貴下の目には自殺する人のやうな素振りは見られませんでしたか』

『僕と親密だからといつて何もかも僕に打明けるとは限らないでせう、若い女性には祕密が多いものですからね』

かう言つて咲山は自分ながら言ひ過ぎたのに氣がついたやうに、目を見張つて口をつぐんだ

『祕密が多いと御想像なさるだけ貴下は何かをつかんでゐるぢやありませんか』

課長の目は又もやピカリと光つて咲山の顔を直視した

『私の言つたのは想像だけのことですよ』

咲山は微笑して何氣ないやうに口をつぐんだ、然し課長は追求の鉾を收めやうとはしなかつた

『令孃には何か戀愛問題があつたといふぢやありませんか、若い女性の理由のわからない自殺と言ふものは大概戀愛問題から來てをりますからね』

『さあ、さうでせうかね。僕等にはそういふことは餘り判りませんね。でまだ私に御用がお有りですか。實は大學の方で受持つてゐる學科の時間が參りますので』

咲山は時計を出して眺めながらひどく急くやうにして課長の顔を見た

『はゝあ、さうですか。否誠に濟みませんでした。用といつても唯今うかゞつた位のことで一日も早く研究の結果の御報告をお待ちしてゐます』

咲山は急にせはしさうにして立ちあがりながら丁寧に挨拶をして課長室を出た

警視廳の外に出てタクシーに乘つた咲山は何の爲か額ににじみ出す油のやうな汗をふいてゐた。そして牢獄からでも解放されたやうな吐息をホッと思ひ切り吐き出した。それから兩手で額を押へてうつ伏しに劇しい苦悶のうちに全身を投込んで行つた

十三日 (小名濱測候所調査)
日出 四、二〇 月出後 三、二三
日沒 六、五三 月沒前 一、〇九
滿潮 後二、三五 干潮 前七、五〇 後七、二五

新六月十三日 木曜 庚申 大安 滿 奎宿 舊五月十三日

諸判定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部 神誠館

▲一白 突飛な事に手を出さずば案外の成績を見る▲二黒 元氣を養ひ避くとも健全にたわまざるに吉し▲三碧 進退共に氣の許せぬ日外にありて殊に慾り▲四綠 胸の中を廻ゐ火の車忙しくも秩序を亂すな▲五黄 進退共に其の宜しきを得る日節りを去べし▲六白 次から次と變りを生じ不如意に陥り易き日▲七赤 永久にわたる事を始むるには尤も吉き日なり▲八白 出る事多けれど入る事更に大なるべし▲九紫 注意し居りても輕卒に流れ易し金談殊に凶

廣告

美味で評判の
イワキサロン
平町 電三三五二

前田醫院

專門
耳鼻咽喉科
高柳耳鼻咽喉科醫院
平町驛前 (電三三六)
醫學博士 高柳博明
(入院應需 自炊ノ便アリ)

着衣のまゝで
痔が快癒
大好評……フタバの磁氣
平町仲町 (電話一九三番)

耳鼻咽喉科 專門
大和田醫院
平町南町一六番地 電一七〇番
(入院隨意 病室完備)

新車御披露!
時代ノ尖端皆様ノ昭和タクシー
二又々新車三五年ノ超モダン車
拔群ノダッチブラザース
ガ入リマシタ。
安全、確實、迅速ハ他ノ追從ヲ許シマセン、匆匆シカツタ御花見モ過ギ去リイヨ〳〵遠出行樂ノ季節トナリマシタ、是非昭和ノ新車デオ出カケ下サイ、如何樣ノ御相談ニモ應ジマス。
團体ニハ地方唯一ノ大型遊覽車御利用願ヒマス。
驛前 昭和タクシー 電話 三四三・三四〇番

運動—服裝は
型と生地の良い……大塚へ
安價と仕立の良い運動具屋の品を
球技用 ユニホーム マーク御注文に應ず。
○野球 ○庭球 ○競技
△アンダーシャツ パンツ
△トレーニング シャツ 最新型・豐富
△ノータイシャツ 十五錢より
弊店自慢の……パンツ
殿り品澤山有ります。
何卒御用命の程を……
田町の……
洋品店の品と御くらべ下さい。
大塚 電話七七番

吸入用酸素 純度99%
度量衡 モノサシ マス ハカリ
計量器 体温器 寒暖計
◎秤ノ取次・錘・糸・修復致シマス
關內藥局 電話四〇番

品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平町・九品寺前

內臟外科 外科一般 花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
安齊外科醫院
平町田町赤心堂病院跡 (電話四七五番)

キリンビール本社直送
樽詰の生ビール
容量比較
生ジョッキ 四合入 金四十五錢
キリン瓶詰 三合五勺入 金五十錢
平會館
電624

初夏の旅行に
素晴しい乘心地の!
三五年式流線型新車を!!!
是非御利用御用命の程を御願申します。
平 三井タクシー
電話六八五番

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店
電話六一番
本店 水戸線下館驛前 (電話五五番)
支店所在地
茨城縣土浦町田宿 (電話六五三)
常磐線關本驛前 (電話八二四)
常磐線四倉驛前 (電話平潟五四)
久慈濱支店 (電話四八)
海上給油所 (大津、平潟) 及油槽所 (小名濱、江名濱)
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、植物油、胡麻、種水、タール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ

耳鼻咽喉科專門
山內醫院
平町田町 (電六九一)
醫學士 山內亨吉
病室完備 自炊ノ便アリ

今年もお馴染の
横濱植木會社特選の
ハナのタネが
參りました。何れも輸出向優良種子です
西村屋藥局 種子部
平2・電3・

產科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院
平町田町 (元合津醫院跡)
電話五五九番

未だ斷定出來ないが 降りは幾分少い摸樣
今日から愈々梅雨に入る
小名濱測候所 空の打診

暦面上では十二日から梅雨にはいつた事になつてゐる、しかしこれは梅雨期を示す一つの目安に過ぎないものであつて何も氣象學上の梅雨現象がこの日から始まるといふ譯ではない、昨今の氣壓配置を見ると、やゝ梅雨型に近づきつゝあるがまだ本物ではない、目下北海道近海にある低氣壓とこの低氣壓の東進を遮る本邦東方洋上の高氣壓とが互ひに四つに組んで驟雨が消してゐるやうな常態でこの勝負如何によつて梅雨期にはいるか、或はまた當分初夏の天候がつゞくかも決る譯である、何れにしても今年の梅雨期中雨量は平年より多少少ない見込である

高月からポンプで 鐵北方面を灌漑
田植季の水飢饉救はる

平町北目、仲間町、四軒町、梅ケ町、九品寺前、彌宜町方部の水田約三十餘町歩は從來毎年挿秧季になると灌漑川たる好間川上流地域(好間村方部)の引水による水不足から田植不能に陥り其の都度町役場に陳情しては消火栓、磐中プール等から吸水し辛ふじて當面を切り拔けてゐた窮狀に鑑み役場水道部では今年度から新に經費四百餘圓を投じデーゼルイング揚水ポンプ(二十馬力)を高月北部に常備し萬一に備へてゐるので茲旬日に迫つた田植季に際しても從來の如き狼狽を來さずに濟むので關係者は何れも愁眉を開いてゐる

小麥販賣統制協議
廿四日平町で開催

縣販聯並に農會では小麥の販賣統制に就て協力一致、その實を擧ぐることになり十一日縣農會に於て兩者の協議會を開いた結果取敢ず來る二十日から縣下十二ヶ所に於て關係者の打合せ會を開き協議をなすことになり平町は來る二十四日開かれるが打合せ會に出席すべき人々は今井農務、尙田切經濟更生兩課長、白木、泉山兩技師、中野經濟更生課主事、三浦縣販聯主事、郡農會關係者、各郡駐在地方擔任技手、町村農會關係者、町村産業組合長並に事務擔當

秦師團長も臨席
縣下學校配屬將校會議
來廿五、六日磐中で

縣下中等校配屬將校會議は既報の如く來る二十五、六日の兩日に亘り磐城中學に於て行はれるが、第二師團長秦眞次中將並に齋藤少將及び縣から伊藤知事、諸橋學務部長、高井教育會長その他臨席の下に、第一日は午後一時開會、知事挨拶、師團長訓辭あつて打合事項協議第二日は午前中福島聯隊區司令部付藤井中佐指揮による平青年訓練所の教練及び大井川中佐指揮の磐中教練を各見學、午後は再び會場に打合せを行ふ筈である尙右教練の指揮は從來は師團より派遣の將校によ執行されたが今回は特に師團長より指命され右二氏が指揮に當ると

二毛作品評會

小川赤井兩村聯合二毛作品評會は八、九、十の三日間開いたが出品百九十八點で入賞

益治　小麥　猪狩二司　大麥
同　根本軍平(三等)大麥
赤井　草野文平外十三名
四等三十一名

共午後零時半から同五時半迄一般の觀覽を許可すると

者、米穀檢査所員等である
尙部內に於ける昨年の兩者の取扱數量は左の如くである
(産業組合取扱)一、五六六石 (縣農會取扱)五、〇〇九石

志賀氏頌德
小名濱で建碑起工

小名濱消防組では元組頭志賀義次氏の功績を傳へるため同町公園にこれが頌德碑を工費六百餘圓で起工、來る十五日頃竣功すると

四倉修港促進陳情

四倉町長新妻盛氏外町議代表五名は昨十一日午前十時十八分發の汽車にて上京、四倉第二期港灣工事着手の運動に就き農林省に陳情した

麥收穫高豫想

平町役場最近の調査による今年度麥豫想收穫高左の如く大麥の成績が良好

	作付	收穫	前年對比差
大麥	二〇七段	五六六	一二四增
小麥	三一	八〇	四四減

斷水

平町新川町地內消火栓修繕のため左記町區は十二日午後十一時から明朝二時迄斷水
新川町、立町、鎌田町、堤の內、並に五丁目、南町の一部

◦◦◦◦兵事々務檢査　四倉警察署管內兵事事務檢査は明十三日午前八時より同署に於て執行すると

那珂觀覽許可
十四、五兩日午後

軍艦那珂は十四、五の兩日

爭奪戰を見越して 色めく勞働街
地方の田植漸く迫る

痲毛病に脅かされた郡下の水田も郡農會其他關係者の努力によつて今ではその殆も無く縣當局の獎勵に基き目下早植えの準備に忙しい飯野方面でも來る十八、九日頃から兆々初めるので早くも鎌田方部の勞働者街に人夫の狩り出しが初められてゐるが、今年の手間賃は先辨當一圓が相場のやうで愈々最盛季に入るに從ひ例年の如く人夫爭奪戰が展開される形勢で、早くも引つ張り凧を見越してゐる勞働者連も先辨當二圓五十錢位になつた四、五年前を追想しなか〱鼻息が荒い

假借無く續けらる、 思ひ切つた不良狩り
今早朝再た數名を拉致

引續き暴力團狩りを進めてゐる平署では今早朝社會大衆黨員と稱して恐喝し歩いてゐた嫌疑ある內郷村大字綴字堀坂鈴木浦治(四五)外數名を檢擧、鈴木の家宅捜査を行ふ等嚴重な取調べを進めて居る

本部員來援

縣刑事課下重警部補が來援今早朝來平夫々を取調べてゐる

仲裁人から 廿圓を取る
惡どい蒲生の罪狀

最つ先に擧げられた內郷村大字宮字臺四三蒲生正利(三八)は取調べの結果、同人は去月初旬夜同村綴劇場前で氏名不詳の者と喧嘩中仲裁の爲飲酒を止めて附近から出て來た同村大字綴字蛭子佐藤欽四郎(三〇)に對し無理難題を吹きかけ同人外一名より合計二十圓を捲き上げた事實が判明、目下餘罪取調中

植田でも更に 一名を檢擧
毆り込み關係の恐喝

着手以來十餘名を檢擧してゐる植田署では昨十一日千葉縣木更津署の手で同町に潜伏中の錦村中田元昭和人絹會社人夫中野廣(四〇)小野敏雄(四五)の兩名を檢擧し伊勢、中野兩署員が身柄引取りに向つた

視察通信 (3)
炭鑛、鐵工、洋灰= 躍進の宇部から
産業資源部委員 阿部生

毎日快晴なる天候に惠まれつゝ一行と共に元氣にて愉快なる旅を續け居り候、七日第一夜は岐阜一泊、二日目廣島、三日目宇部市に參り一泊仕り候。途中岡山倉敷廣島を視察、嚴島神社に參拜し之れより愈々九州に入り視察の目的に進む豫定に候

〔註。宇部〕山口縣に在る市、瀨戸內海に面し鐵道山陽線宇部驛及小郡驛から宇部鐵道が通じてゐる元來農業地であつたが歐洲大戰後工業地として勇ましく發展し、大正十一年村から一躍市制を布いた、沖の川炭鑛の所在地であり又紡績、鐵工業等が行はれる。農産物には煙草、薄荷の産がある。
人口六萬一千

忙中閑
良妻監視の圏外に 罪の無い命の洗濯
平町議團のゴシツプ製造

自分の町に居ては謹嚴重厚の平町會議員も、一歩外へ出ては暢然たる自由の天地に、何年來鬱積した肩の凝りを揉みほぐし度い氣にもならう、而もその位の治外法權を認める事は今や留守もる賢夫人の常識として公務出張中の夫君に對する義務がどうか?、その詮索は第二として目下各方面に出張中の平市制調査委員一行は、忙中寸閑を利用し至る所桃色のゴシツプ種を作つてゐるかも知れない——と云ふのは最近チョイ〱本社に舞ひ込む次の樣な通信から出た判斷。歸來家庭爭議の種たるを怖れ、發信人は匿名にする

0

此の地は『草餅』をシシと云ふ、その語源を開くに、女の忍び來る時、羽織なり前掛けなりを以てその顔を隱す、その態恰も獅子に似たり。初めてシシ食つた報ひのいはれが判つた譯です。一行市制調査の副産物的この知見の收穫を喜ぶこと限り無し、どうです遙かに健康を祈る
六月八日夜　山中聽泉閣　K生

0

第一日水上、第二日山中の兩溫泉へ泊り昨夜京都入り、山中では旅情を癒やしました。誠に結構の溫泉で相當の町です
山中でシシを擊たずに空戻り
六月十日　京都日の出旅館　エム生

有權者へ注意
◇名簿の基準變更

昨年九月十五日現任で調製の町會議員選擧人名簿は近く公布の改正法律によりその選擧權所有者は現在の明治四十二年九月十六日以前生のものが同年十二月二十六日以前生れとして其間三ケ月延長されるので平町の有權者四千二百九十七名も若干增加する事になり昭和七年九月十六日より居住する該當者は來る二十日迄屆け出られたいと

際し荒川又一郎一派に組した加害者の宮岡、鈴木兩家族の扶助料と稱し現金百餘圓をゆすつたものらしい

三名は一時歸宅 一人は福島署へ
平署の暴力團調べ進む

平署の暴力團狩り第一日に擧げられた九名は引續き渡部、齊藤兩司法主任係りで取調べ中であるが中三名は取調べ一段落を告げたので昨十一日一應歸宅を許されたが、尙昨十一日福島署の指名手配により恐喝の嫌疑で同署に擧げられた平町才槌小路新福島新聞平支局營業部員磯村祐雄(三五)は長澤特高主任が下調べの上昨十一日夜引取りに來た福島署刑事に身柄を引渡された

巧妙な 少女の詐欺
最近四倉に出沒

昨十一日午前九時頃四倉町字本町龜の湯裏小針新之助方に十五六才の少女來り、同町大倉女學校に通學してゐる同家の娘に頼まれて來たと稱し振り袖の寸法をはかるからとて着物を持ち去つた、後で母親が不審に思ひ女學校の娘に問ひ合せた結果まんまと詐欺にかゝつた事が判明早速四倉署に屆け出た、近頃此種の手段で各商店、其他を荒し廻る小娘あり背後に之を操つて居るものがあるではないかと其筋でも嚴探中

小名濱町時局講演

小名濱町では此程左記三氏への傳達式を小學校に開き終つて帝國軍人後援會福島支部理事矢部寛氏の軍人後援と時局問題と題する講演會を開いた
豫備役上等看護兵丹野純一郎、上等兵齊藤安之丞一等兵馬上捨吉

梅干と鯖に中毒
苦悶一日で絶命
食べ合せ御用心!

四倉町字町頭八ノ一セメン丸製造業高木喜代好妻ツネ(四〇)は一昨十日午後五時頃俄に腹痛を始め早速門馬醫師の來診を求めた結果、梅干とサバの喰ひ合せ中毒と判明、手當の甲斐なく遂に昨十一日午前七時半頃死亡した、同家には十六才を頭に七人の子供有り附近の同情を招いで居る

◦◦◦◦縣町村長會議　縣では來る二十六日午前十時から平第三小學校外縣內三ヶ所に町村長會議を開催地方長官會議の總理大臣はじめ各大臣の訓示や協議事項を傳達し更に市町村單位の選擧粛正委員會設置其他選擧粛正事項或は自治伸長の各種事項を審議する

◦◦◦◦小川江臨時會　石城小川江筋組合議員の初顏合せを兼ねた臨時會は昨十一日午前十時から平聯体事務所に開き組合規約改正を滿場一致可決した

◦◦◦◦教育視察團來平　北海道十勝支廳管內教育視察團一行(中川郡幕別村長藤田松之助氏外校長十名)は今十二日來平、町役場、小學校の教育施設を視察した

プールへ轉落溺死

好間村大字上好間字小舘古河炭鑛坑夫熊吉三男蟻波武男(五)は十一日午後四時半頃自宅附近の古河プール附近で遊戯中誤つてプールに轉落溺死した

◦◦◦◦佐々木君入營　平町材木町一九佐々木安一氏方佐々木乘吉君は朝鮮羅南歩兵第七十三聯隊に入營のため十三日午前八時三十分平發で出發する

牛疫豫防注射

縣牛乳協會石城支部臨時總會は昨報の如く昨十一日午前九時から平署會議室に開き牛乳處理場設置に關し協議、終つて午後一時から縣防疫獸醫輕部治、同家畜防疫委員高橋克三郎兩氏臨席の下に牛の傳染性流産に關し協議した結果大体來る八月中旬頃郡內全般に亘り之れが豫防注射を執行する事になつたと

四中等校野球試合

同業磐城時報社主催四中等學校(磐中、平商、安積、田村)野球リーグ戰は來る十五日午後二時、十六日午前八時から磐中グラウンドで擧行する

◦◦◦◦平機關庫員表彰　平機關庫の立原豐吉、志賀二郎、鈴木政三氏はそれ〲列車を危險の一歩前で救つたといふ用意周到さが認められ十一日村上東鐵局長から特賞として金一封を贈られた

◦◦◦◦度量衡講習會　來る九月一日より十二月二十四日迄商工省に於て度量衡講習會を開くが中學校、又はこれと同等以上の學歷を有する受講希望者は來る十五日迄町役場へ屆け出られたいと

平區略式二束

平町古鍛冶町三一自動車運轉手岩原宗助(二五)は三日午前八時半頃同町八幡小路地內を空自動車を運轉中同町杉平西內牧造長女エイ(四)を傷け應急の處置はしたが申告を怠り罰金二十圓。又雙葉郡浪江町權現堂字塚越二朝鮮慶尙南道馬山府生れ古物商金文俊(三九)は二月二十日同郡請戶村菊池菊水その他から古鐵約六十貫を買受け、同町古物商原鮮鋼一に六圓餘で賣却しながら記帳を怠り罰金五圓に何れも此程平區より略式命令された

遊覽團体募集
一、柳津(虚空藏詣)、那須一泊、日光參拜
締切期限 六月廿一日
出發日時 六月廿二日午前四時
會費 御一名樣料金六圓
二、古峯ヶ原樣參詣、東京見物
締切期限 六月二十四日
出發日時 六月二十五日午前六時
會費 御一名樣料金六圓也
(以上何れも晝食二回宿泊料を含む)
各車共定員三十二名
(定員未滿の折は延期致す事もあります)
尙案內明細書を御覽下さい。
尼子自動車遊覽部　電 六四〇番

(入院隨意)
整形外科 X光線科 專門
醫學士 大河內一郎
大河內醫院

骨折 脫臼 打撲 捻挫 小兒骨折 專門
(自炊自由)
平町搔槌小路四(電話五八八番)
大河內整骨院
柔道整復師 大河內寅雄

夏の榮養は鷄肉と卵に
鷄肉 鷄卵 商 鳥菊號
高野鳥肉店
平町南町釜屋裏　電話 二八六

內科
平南町(電二四三)
川井內科診療所
川井安子